

ケアマネジャーも親の介護にアタフタしています

南大井在宅介護支援センター

ケアマネジャーにも当然、親がいます。

そして、例にもれず親の介護に直面します。

専門知識があるからこそ、「こうすべき！」という理想と、介護者として「そんなにできない！」という現実とのギャップに悶々とします。

ケアマネジャーは、「本人の尊厳が最も大切」だと十分に理解しており、親の「家にいたい」「あなたに介護して欲しい」「こう生きていきたい」を実現したい一方、私たちにも仕事、家族、生活、自分の人生があります。介護サービスは万能ではありませんし、親がサービスを拒むことや家族間の意見のずれ、金銭問題等、介護者としての悩みはつきません。

しかし！ それでも、ケアマネジャーのスキルを活かして、地域のサービスの情報収集や、親の主治医・ケアマネジャーやデイサービス・ヘルパーさんに相談して解決策を探っています。また、介護サービスだけでなく、長年関係がある親の友人やご近所さまにも、親や私たちの現状をオープンにし、ゆるやかな関わりを続けてもらえるよう努めます。

何より、私たちには南大井在宅介護支援センターの仲間がいます。

ふと、親のエピソードを話題にすると、専門職の視点と仲間の視点で不安な気持ちを受け止めてくれたり、自分の介護談を話してくれたり、目から鱗の金言をもらえることがしばしば。

すると、あら不思議！「このままでも十分できているのね。」

「今、できることをやってみよう！」と明るい気持ちになります！

介護の専門職だからこそ、完璧な介護は難しいことを受け入れ、頼れる人と制度には気持ち良く頼り、しっかりと休息も取り、自分の人生も楽しむ。

介護は長期にわたることがほとんどです。

自分も親も大切に、お互いが「今日も良い日だった～」と思える日々を積み重ねていきたいものです。

玄関前に職員が植えた花です。
毎日癒されております。

